

平成30年9月18日

部農会長・部農会会員の皆様へ

J A 伊 豆 の 国
葦山営農センター

第11回 (9/18号)

水稻病虫害発生予察の結果について

① 生育状況

生育は概ね順調に進んでおります。葦山地区は乳熟期～糊熟期となっており、長岡・大仁地区は糊熟期～黄熟期となっています。

山間地は収穫期です。収穫が終わっている圃場も確認できました。収穫が遅くなりすぎると、胴割れ米、着色米などが増加して品質が低下するので、刈り遅れに注意して下さい。

病虫害状況

病虫害に関しては、ウンカやヨコバイが見受けられましたが、前回の予察と同程度の発生で、坪枯れを引き起こすトビイロウンカ（秋ウンカ）は、今回の予察では確認されませんでした。

いくつかの予察圃場で強風の影響による穂の褐変や不稔果、白穂の発生が見受けられました。その中、籾が褐変する「内穎褐変病」、菌核を穂につける「稲こうじ病」、上部まで侵食すると穂が折れてしまう「紋枯れ病」が確認できました。今回の予察で大発生している圃場は見られませんでした。ご自身の圃場を確認して頂き、発生が見られた場合は次年度以降防除のご検討をよろしくお願いします。いずれの病気も穂ばらみ期～穂揃え期の防除がポイントになります。また窒素過多が病気発生への助長にも繋がるので、次年度以降の施肥量にも注意してください。下記は「内穎褐変病」の資料です。ご参考にしてください。

◎内穎褐変病

出穂後2～3日頃に細菌が感染し、内穎が褐変します。発病籾の玄米は茶米・死米となり、品質が低下します。出穂期の降雨と出穂後の高温(30℃以上)で発生が助長されるので、出穂期から開花期に高温や降雨にあうことが予想される場合には、穂ばらみ期から穂ぞろい期に薬剤を散布します。



↑内穎褐変病

② 資材紹介

<殺虫剤>

○トレボン粉剤 DL→ 3～4kg/10a を散布

ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類に効果を発揮します。

※ 収穫7日前までに3回以内で使用できます。

問い合わせ：葦山営農センター 片山

TEL 055-949-0055